消費者トラブル防止コンテンツ製作コンテスト２０２０

受賞作品集

令和３年（２０２１年）２月

山口県県民生活課消費生活センター

目　次

〇作品

小説部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

漫画部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

動画部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

〇消費者トラブル防止コンテンツ製作コンテスト２０２０概要・・・４１

＊＊＊この作品集について＊＊＊

若者の消費者被害を未然に防止するために、「消費者トラブル」について学ぶきっかけとなる作品を県内の高校生、大学生等から募集しました。

小説、漫画及び動画の３部門に、消費者トラブルの事例や対処法をわかりやすく描いた１１７作品の応募があり、消費者教育の専門機関での一次審査、Ｗｅｂでの一般投票による二次審査の結果、受賞が決定した３０作品を掲載しています。

※「消費者トラブル防止コンテンツ製作コンテスト２０２０」専用サイト

https://keshi-con.com

・・・・・小説部門・・・・・

最優秀賞

「純潔と威厳」　山口県立大学　榎本　由里香　…… 1

優 秀 賞

「お手伝いロボット買いませんか？」　山口県立大学　勢田　佳音　…… 4

「その三桁、希望。」　山口県立大学　本永　小晴　…… 6

「目先の利益の恐怖～断れない！
　　避けられる！マルチ商法～」　山口大学　園田　七菜　…… 9

入　　選

「過ち」　山口大学　川島　大吾　……12

「あるゲーム好きの高校生のお話」　大島商船高等専門学校　沖　駿介　……14

「恋は盲目」　YCC 山口コアカレッジ　澄川　晋ノ介　……17

「心高鳴る 20 の夏」　山口大学　熊田　悠哉　……22

「非日常ではないトラブル」　山口県立大学　堀尾　寧々　……24

※賞別に作品名 50 音順に掲載しています。

「純潔と威厳」

山口県立大学　榎本　由里香

　神様は私たちから目を逸らさない。肌を焼く熱い日差しの中も、針のように突き刺す寒さの中も、立つことすら危うい風の中も、ずっとどこかで私たちを覗いている。

「そう、思ってたんですけど……ふ、ふふ」

「悲壮感漂いすぎじゃない？　怖いんだけど」

　なかなか成績が上がらなかった高校受験直前、塾の帰りに立ち寄った CD ショップで彼女たちに出会った。キラキラした白い衣装を身に纏ったふたりの女の子が載ったポスターに、店内放送から聴こえてくるポップでキャッチーなメロディー。蕩けるような甘く優しい微笑みと、真っ直ぐに伸びる清らかな歌声に身体が沸き立つ心地がした。弾かれるように CD を手に取って、レジへと向かった。私のお守りはこれだ！　そう思った。それが私と、マリアリリーというアイドルの出会いだった。

「まさか、ファンクラブ会員ですらチケット取れないなんて……」

　こんなに広い会場初めて！　とぴょんぴょん飛び跳ねながら喜んでいたふたりをよく覚えている。嬉しさを全身で表現している姿に、一ファンの私まで胸が熱くなった。六年間ファンをしてきて、ファンが増えていく過程も見てきた。ふたりの愛が、情熱が、いろんな人に伝わっていく様子を寂しく思いながらも、やっぱり誇らしかった。

「まあ、今までも行ってるんだしいいじゃん」

「違うの！　今回の会場は、特別なの！」

　ふたりが何度も憧れだと話していた会場でのライブ。絶対にこの目に焼き付けたい！　その一心で今日まで善行を積んできた。バイトだって打診されたらシフトに入ったし、教授の雑用だって進んで引き受けた。いつもはサボりがちな予習復習もしっかりと取り組んだし、締切が一か月先の課題ですら既に提出を終えている。どこかで見ている神様が、私に味方してくれるようにと思っていたのに、現実はなんと非情なことか。

「ふたりに、会いたかったのに、うう」

　情けなく声を震わせる私に、優しさなのか野次馬精神なのかで家まで駆け付けてくれた友人は呆れたような溜息を漏らす。

「そんなに会いたいなら、どっかで買えば？　……ほら、値段高いけど、売ってるよ」

差し出されたスマートフォンには、マリアリリーの名前と、ライブのタイトル、それからゼロの数がひとつ増えた値段が表示されていた。

「え……六万!?」

「これは一般会員だからっぽいね。ファンクラブ会員だと……十万だって」

「た、高……！」

「これが人気ってことなのかな。そりゃあ、今言ってたみたいに特別なライブなら尚更だよね」

すいすいとスクロールされる画面を食い入るように眺める。どれも六万、八万、たまに十二万とか、何十倍もの値段になったものばかりだった。これを買えば、ふたりに、ふたりが憧れのステージに立つ瞬間に、立ち会えるのだ。そう思うと、気管の辺りがふわふわざわざわ不思議な感覚に包まれた。ふたりにお金をかけることに抵抗はなかった。地方公演を見るために遠征したり、複数公演見たりしていたから。それと同じだと考えれば、決して出せない金額じゃない。ふたりに会うために、あの輝かしいステージに立ったふたりを、この目に焼き付けるために。きゅっ、と驚いた衝撃で緩んだ口元を引き締めて、友人の目を真っ直ぐ見つめる。

「いや、買わない」

「……え？　いいの？　あんなに会いたい！　って咽び泣いてたのに」

覚悟を決めた表情をしていたであろう私に、友人は詰め寄る。きっと、高額のチケットを買うと思っていたのだろう。私がふたりにお金と時間を惜しまないことを知っているから。私は、友人がそんな私を救うためにこれを見せてくれたことを知っている。それでも、このチケットを買うという決断には至らなかった。

「チケット転売って、違法じゃん？　めちゃくちゃ会いたいし悔しいけど……私は、ふたりに誇れるファンでいたい」

いつだって私の味方でいてくれたふたり。きらきら輝いていて、いつだって綺麗。私なんてたかが一ファンだけど、それでも、ふたりが自慢できるファンでありたい。受験期に勉強を頑張ろうと思えたのも、その思いがあったからだった。真っ直ぐに突き進むふたりを、真っ直ぐな気持ちで応援したい。だから、私はチケットを買わない。

「……そう。なんか、そっちの方があんたらしいね」

「でしょ？」

脱力したように笑う友人に、私もようやく口角が上がった。悔しいし、悲しいけど、仕方ない。きっとふたりにはまた会える。それも、もっと大きな会場で。だって私がこんなに好きなふたりなのだから。

それから数日後、まだ立ち直れてはいない。落選、の文字を見ては落ち込む日々が続いているが、

友人が外に連れ出してくれるおかげで少しずついつもの私を取り戻してきた。

　大学の講義後、カフェで話をしていると低い音でスマートフォンがヴ、と震えた。友人の方をちらりと確認すると、見てもいいよと言ってくれたのでありがたく通知の理由を探った。

「……えっ、え、ちょっと。え？　待って待って」

　通知の正体はメールだった。ただ、内容がいまいちよく分からない。いや、分かってはいるんだけど、衝撃的すぎて私の脳みそじゃ処理し切れなかった。

「何言ってんの？」

「ちょちょ、ちょ、これ、これ見て！　分かんない私、これどういう意味!?」

　わたわたとスマートフォンの画面を友人に見せつける。三人には満たない頭だけど、きっとこの程度ならふたりで、いやひとりでも十分なはずなのだ。

「……復活、当選？」

「え？　待って。当選？　当選って、待ってどういうこと!?」

　荒ぶっていく声に耳もかさず、友人は自分のスマートフォンを取り出してすいすいと操作する。こんなにテンションのおかしい友人が目の前にいても尚、自分のペースを崩さない友人を単純に尊敬する。

「……あ、なんかチケットキャンセル出た分が回ってきてるっぽい。ネットでも騒がれてるよ。やったじゃん」

「えっ、あ、え、会えるの!?」

「うん。おめでとう」

　あんたの思い、報われたじゃん。そう笑った友人に、身体が沸き立つような、誇らしいような。そんな心地がした。

　神様は、私たちから目を逸らさない。

「お手伝いロボット買いませんか？」

山口県立大学　勢田　佳音

「よしよし。届いた、届いた」

目の前には大体１メートル位の高さの段ボール箱。つい数分前、配達員のおじさんが運んでくれたものだ。中に入っているのはお手伝いロボットである。先日 SNS を見ているときに偶然目にした広告から発見したものだった。『最新型！今だけ！すぐに使える人型ロボットがあなたの生活を支えます！』という文章に惹かれてサイトを読み進めていたら、あと 15 時間と書かれたカウントダウンの数字が画面上に現れ思わず購入したのである。壊滅的に家事が苦手な人間にとっては素晴らしい商品だ。ロボットといえば数十万円はしそうなものだが期間限定の商品らしく特別価格３万円で手に入れることができた。もう少しで買い損ねるところだったなんて危なかったな。

「思ったより小さいな…。説明書は…っと」

早速箱を開けてみるとこちらを見上げる無機質な目と視線がぶつかる。持ち上げてみると丸いフォルムのロボットの頭部。もしかして組み立てないといけないのかな。

「すぐに使えるって書いてあったのに」

このロボットが偽物で、自分は騙されてしまったのではないかと心臓がどきどきしてくる。なんとか動悸を抑えて、まあ組み立てるだけなら…と自分に言い聞かせて仕方なく頭部の下に入れられていた説明書と書かれた冊子を開く。まずはロボットの頭部の電源を入れるようだ。ピピっと電子音がして先程まで真っ暗だった目に青いライトが点いた。

「コンニチハ。最新型お手伝いロボット、I-G66AS6 をお買い上げ頂きありがとうございマス」

「おわ！びっくりした…。これ喋るんだ…」

「喋りマス」

「おお…会話もできる…」

「会話もできマス。お手伝いロボットですからネ」

この会話ぶりを見るとどうやら本物らしい。不安が現実にならなくてよかった。

「よし。この調子で組み立てるぞ」

そう思って段ボールの中に手を突っ込む。説明書の下には一枚段ボールの仕切りが付けられていて、この仕切りの下に他のパーツが入っているのだろう、とカッターで仕切りを切り離していく。

「あれ」

仕切りの下に入っていたのは大量の紙だった。ぐしゃぐしゃに放り込まれたような新聞紙、その辺でいくらでも配られているようなチラシ、そして１番上には請求書。背中をひやりとした汗が伝った。請求書には６０万円の文字。６０万！？

「来月に右腕のパーツが届きマス」

床に置いていた頭部が話す。

「え、１回で全部届くわけじゃないの」

「ハイ。計１０回でのお届けデス」

「しかも６０万円って」

「ハイ。I-G66AS6 は定期購入が条件となっている商品デス。１０回分の代金の合計が６０万円となっていマス」

「そんなの聞いてない！」

「きちんとサイト上に表示されていマシタヨ」

いよいよ冷や汗が止まらなくなってくる。６０万円という大金の請求が自分に来ていることの実感が少しずつ現れ始めたようだ。広告を発見したときと同様に SNS からサイトに移動する。注文したのは数日前であるため、もしも特設サイトであれば消えている可能性もある。画面をタップして進んでいけば無事に元のサイトには辿り着けた。しかし。

「時間制限が元に戻ってる」

数日前に注文したときには残り 15 時間で、とっくに終了しているはずのカウントダウンの表示は残り 20 時間を指していた。なんなら増えてしまっている。そしてサイトに書かれているはずだという購入条件が定期の購入であり、その総額が 60 万円であることはサイトの一番下に豆粒かというほど小さな文字で記されていた。

「これって返品できたりしないの」

「販売元に電話をかけることが可能デス」

「なるほど」

ロボットに言われた通りにサイトに記されている電話番号にかけてみるものの、一向に繋がる気配はない。

「電話かからないけど」

「それに関しては責任を負いかねマス」

「そんな…」

６０万円も払えるはずがない。ただ家事を簡単にしたかっただけなのに…。

「これからどうぞよろしくお願いしマス」

ロボットの頭はその一言を最後にぷつっと音を立てて止まってしまった。目が再び暗くなったのを見て、ついに自分が騙されてしまったのだ、と泣きたい気持ちでいっぱいになったのだった。

「その三桁、希望。」

山口県立大学　本永　小晴

「この子、また新しい服買って投稿してる…。同じ高２でしょ？？どこからそんなお金でてるの？？」

寝る前のルーティーンになっている、SNS を見ながらぽつりと呟いた。

私が見ているのは、女子高生のファッションの投稿。

毎週新しい服やコスメの投稿をしていて、参考にしている人も多い。

絵に描いたような“憧れ”って感じのキラキラ女子。

羨むような眼を向けながら、自分のアカウントをタップする。

「この投稿へのリアクションも無しか～」

私も彼女と同じように SNS にファッションを投稿しているが、反応はイマイチ。

自分なりにいろいろ工夫してるんだけどな。なにが違うんだろ。うーん…。

やっぱり他の人とちがいをつくるのが大事だよね。注目してもらえるし。

一気に注目を集めるなら…、ハイブランドの服が一番かな。

高校生には買えないくらいの服を投稿したら、注目の的になることまちがいなし！

そのためには、まずお金貯めないとな…。でも今月もピンチなんだよな。どうしよう。

ウチの学校バイト禁止だし、お小遣いの前借りしたらお母さんすごい怒るし……。

「せめて、もう少し安くいいブランドの服が買えたらなぁ。」

そう言いながら SNS を見ていると、１つの投稿が目にはいった。

２万のバッグが５千円になっていたので買いました～！

センスいいものばかりですっごい目移りしちゃいます（＞▽＜）

ものすごく対応も丁寧で、安心してお買い物できました！！

ノリがよく、気さくな感じの方でしたので、やり取りも楽しかったです！！！

断然ほかよりオトクなので、絶対おすすめです(*’ω’*)

よければ実際のサイトも見に行ってくださいね～～～！！

投稿には有名ブランドのバッグと、URL が添付されている。

これって通販サイトの紹介だよね？5 千円はヤバすぎない？

ここならこれまでよりいい服が安く手に入る！SNS でも注目の的間違いなし！

さっそく注文しなきゃ！！

急いでサイトに行ってみると、ラッキーなことにちょうどセールの真っ最中。

どの洋服も安くなっていて８０％オフのものもある。

もしかして、すごくツイてるんじゃない？？

しかも、商品の中には欲しかったコートもある！

この特徴的なブランドロゴ、間違えるわけがない！

写真撮ったら絶対映えるよね？買うしかないじゃん！

ついでに良さそうな服もまとめて買っちゃお～。安くなってるからたくさん買えちゃう。

サイト内のお客様の声みたいなのもほとんど高評価だし。安心、安心！

「さっそく注文して、振り込みは…明日でいいよね！よし、かんりょ～～！！！」

届いたら何と合わせよう…。今持っているアレもいいし、コレとも合いそう。

困ったら、このサイトでまた買えばいいしね！！すぐ届くんだし。

楽しみだなぁ。絶対みんなに自慢しよ！

これからのことを想像して、ワクワクしながら眠りについた。

しかし、何日たっても商品は届かなかった。

遅れているのかなとも思ったけど、発送は完了してるみたいだし…。

「さすがに不安だから、問い合わせてみるか…。」

サイトに記載されているメールアドレスに問い合わせてみる。

しかし、返信はこない。もちろん商品も。なんど問い合わせても音沙汰なし。

さすがにおかしいと思ったが、サイトにはメール以外の連絡方法が記載されていなかった。困り果てた私は、最初に見た SNS 投稿者にメッセージを送ってみることにした。

メッセージを送るために、その人のアカウントを見てみると、あることに気付いた。

「あれ？この人、おんなじ投稿ばっかりしてる……。」

投稿履歴には、私が見たものと同じ投稿が何回も投稿されていた。

不安に思いながらもメッセージを送ってみる。返信はこない。

既に支払いを済ませているので、商品がこないと困る。

日に日に焦る私は一縷の望みをかけ、今回のことを SNS に投稿した。

すると１時間もしないうちに、何件ものメッセージがきた。
「あのサイトに騙される奴まだいたんだ www」
「そのサイト悪質なサイトみたいですよ。高評価で見づらくなってますけど、低評価の人がちゃんと注意喚起しています。サイトちゃんと見ましたか？？」
え？なにそれ？そんなことないよ…。だって高評価多かったし、おすすめしてる投稿者もいたんだよ？
そうだ、サイト……、ホントだ、かなり下の方の低評価コメントで注意喚起してる人いる。
最初の方しか見なかったから気付かなかった…。
「なら、私の服は？？支払ったお金は？？？」
わけもわからず混乱していると、SNS にさらに新しいメッセージが届いた。
もしかして、私がメッセージ送った人？と思い、画面をひらいた。
しかし、知らない人からのようだった。
「ちなみに、あんたが見た SNS の投稿もヤラセだと思うよ。投稿縦読みしてみ？？」
縦読み？？えっと…。
「に、せ、も、の、だ、……よ。」
私は愕然とした。
後からよく調べてみると、あのサイトは偽物の商品を取り扱っているところで、紛い物が届けられること、酷いと商品すら届かないということが分かった。
少し前から同じような被害があったようで、ネットでは有名だったそうだ。
私は一気にどん底へと落された気分になった。
ハイブランドだからと、奮発して貯めていたお年玉まで使ってしまった。
終わった…。どうしようもない。親に言っても怒られるに決まっている。もうお小遣いもらえないかも。もっとよくサイトを見るべきだった…。調べればよかったんだ。
私が今にも泣きそうになっていると、軽快な音とともにスマホが明るくなった。
通知を知らせる欄には、
「もし、困っているならここに連絡してみてください。」
という簡単な文と“１８８”の数字。
なんだろうと思い調べてみる。こんなところがあるんだと驚き、スマホを手に取る。

「……というわけで、ここに連絡しました。どうにかなるんでしょうか。」
今回、お金は戻ってこないかもしれない。それでも相談することで心は軽くなった。
消費者ホットライン。私の最後の希望はここだと強く実感した。

「目先の利益の恐怖～断れない！避けられる！マルチ商法～」

山口大学　園田　七菜

「やば、今月収入ゼロじゃん・・・」

大学3 年生のユキは旅館でバイトをしている。しかし新型コロナウィルス感染拡大に伴い、旅館がしばらく休業になった。最低限の生活は親からの仕送りでなんとかなるが、遊びのために使うお金が全く無い。サークルも活動禁止となり何もすることがない中、お菓子を大量買いして友達と家で駄弁ること、ネット通販で服をポチることが、ユキにとって唯一のストレス発散方法だった。それをするお金がなくなるということは、彼女にとって苦痛でしかなかった。とにかく今はお金が欲しくて仕方がなかった。

「そういえば、タエが簡単に稼げる仕事があるって言っとったな・・・ちょっと聞いてみよ」

＊＊＊

新入生のナナは、つい最近ユキのいるダンスサークルに入った。先日行われた新入生オンライン歓迎会で入部を即決した。先輩方はみんないい人だったが、特にユキとタエは面白く、優しく接してくれた。活動禁止が解除されれば楽しく活動できるだろうと考えていた。すると、ユキからメッセージが届いた

「やっほー！今日うちに来ん？」

＊＊＊

ユキの家に入ると、家の中には既に3 人の女性がいた。見覚えはないが、ユキの友人・後輩だろうと思っていた。ナナが席についたら、ユキは話を始めた。そこでユキが高級ブランドの洋服を着ているのを一人の女性が褒め、会話は弾んでいった。やっぱりユキ先輩の話は面白い。そうナナは思っていた。

最初はただの世間話だったが、次第に「ある仕事」の話に変わっていった。それは簡単に稼げる仕事らしく、同じサークルのタエもやっているという話だった。

「これね、ほんとすごいんよ！一回在庫を買うのに5 万支払わなきゃいけないんだけど、それを誰かに売れば売上の30%が自分に入ってくるんよ。しかも誰かに紹介したら紹介者一人につき3 万もらえるよ。私もこの前始めたけど、やっとったバイトより稼げとる(笑)みんなもバイトできんくなって困っとるでしょ？こっちのほうが絶対楽だし稼げるよ！ここでもう契約せん？」

ナナは終始固まっていた。

「(そんなうまい話ある？これって確かマルチ商法よね？先輩の言うことだから信じたいけど、あきらかに怪しい。それにまだバイトも始めてないから収入減って困ってる、なんてこともないし・・・ここはやんわりと断っとこう)」
と考えていた。しかし他の人たちはもう目がギラギラしていた。今すぐにでも契約してやる、という覇気を強く感じた。ナナは怯えていた。メンタルがジリジリとすり減っているのを自分自身で感じていた
そこでユキはこう放った。
「ねえ、ナナちゃんはやらないの？」
彼女の言葉はナナのメンタルに 20 のダメージを与えた。みんながナナのことをみる。視線が冷たく感じた。
この誘いは明らかにおかしい。でもここで断ったらユキ先輩を傷つけることになるんじゃないか。せっかく誘ってくれたのに。先輩に嫌われたくないし・・・。そういう思いを頭の中でぐるぐると繰り返していた。
いやいや、ここは腹をくくってちゃんと断ろう。だって明らかにおかしいもん。そう考えた。
「・・・すみません。私バイトもやったことがなくて・・・それに 5 万円なんてすぐ出せる額じゃないから、やめときます。ほんとすみません・・・」
て、全然はっきり断れてないじゃないかい、と言ったあとにツッコミを心の中でした。するとユキは、
「そっかー残念。じゃあ気が向いたらまた教えてね。いつでも歓迎だから！」
ほら言わんこっちゃない。そう思ったが、ナナはユキの返答にホッとした。
＊＊＊
あれから、ユキにこの前のことを聞かれることはなかった。あのまま空気に流されて契約していたら、私の人生はどん底だったかもしれない。そう考えると、正直に断ることって大事だな、とナナは思った。ユキ先輩や他の３人のことは心配だが、とりあえず自分の身は守れたということで、めでたしめでたし・・・
・・・ではなかった。
突然、スマホに着信が来た。同じ学部の同級生ミカからだった。ナナは電話に出ると、ミカはこう尋ねた。
「ねえ、ナナの部活でマルチ商法が流行っとるって本当？」
驚いて目が飛び出そうだった。ミカ曰く、大学内でマルチ取引でのクーリング・オフ件数が増加しており、被害にあった学生の証言からその経緯をたどると、ほとんどがうちのサークルのメン

バーにたどり着いたという。その噂が広がり、学生の間ではうちのサークルは「マルチ取引サークル」と呼ばれているらしい(本当はダンスサークルなんだけど・・・)。
ナナはしばらくショックで呆然としていた。サークル内でマルチ商法が広まっていることすら知らなかった。このまま悪い噂が広がれば、学園祭や地域イベントでの出演も断られるのではないか？楽しみにしていたサークルでの青春が、段々と崩れていく。
うちらのサークルこれからどうなるんじゃろ・・・。サークル変えよっかな・・・。
ナナはそう思っていた。

読んでくださりありがとうございます。
この小説は、つい最近母親が体験したことをもとにして制作しました。
「楽にお金が稼げる」、このような都合の良い話はありません。多分ほとんどの人がわかっており、ユキがした説明を笑いながら読んでいた人もいると思います。
しかし、突然の収入の低下や不景気など混乱に直面すると、多くの人が適切な判断ができなくなります。今回のコロナショックもその例でしょう。この状況を今すぐ脱出しようと、目先の利益を優先してしまいます。これで、ときには悪い事を犯してしまうこともあります。
「悪質商法に騙されるわけがない」。そう思っていても、騙されてしまう人はたくさんいます。
これは身近に起こり得るものです。思わぬ事件に巻き込まれないためにも、消費者トラブルに関する見識を深めていきましょう。
これ、悪質商法じゃない？と思ったり、断れずに契約しちゃった・・・という方は、消費者ホットライン 188 に電話しましょう。

「過ち」

山口大学　川島　大吾

私の名前は亀山桜。地元の大学に通っているが親に無理を言って一人暮らしをしている現在大学2年生で、先月成人を迎え大人の仲間入りをしたのである。お酒だって飲んでもいいし、いずれは自分用にクレジットカードも作りたい。成人してから毎日楽しく生活を送っている。

ある日、ＳＮＳをきっかけに知り合った同じ大学の先輩である滝さんからメッセージが来た。「明日の昼、時間空いている？もしよかったら一緒にご飯食べようよ」という内容であった。滝さんはＳＮＳでは多くのフォロワーがいて、周りの友達からも憧れのような先輩であった。直接先輩に会ったことはなかったが、ＳＮＳでのやり取りでは気が合った上、食事くらい別に嫌な気がしなかったので誘いに応じることにした。

―翌日―

食事も一通り終えたころ先輩が突然真剣な顔をして話を切り出した。

「楽にお金が稼げる儲け話があってね。俺はこれで月に 40 万円以上儲けたんだよ。」

先輩の話を聞くとバイナリーオプションとかいう投資によって先輩はかなりお金をもうけたらしい。しかし、私は投資なんてもの不安で自信もないと伝えると

「大丈夫。絶対儲けられる。今すぐ始めないと損しちゃうよ。投資自体は資料のようなものを参考にしたら大丈夫だから。」

などと長時間説得をされた。相手は同じ大学の先輩であるうえ、長時間熱く説得をされては「断る」とは言えなかった。

先輩が言うには参考資料となるＵＳＢを買う必要があり、値段は 50 万円ほどするそうだ。

バイトをしているとはいえ、一般家庭の生まれでまだ20歳で一人暮らしをしている私には50万ものお金は持っていないと先輩に言うと

「学生ローンでお金を借りれば問題ないよ。海外の大学に2週間留学するということでお金は借りられるよ。」

と勧められ、数か所の事業所を経由して50万円を借金して先輩が勧めたＵＳＢの契約をして手に入れた。50万円もの借金を背負ってしまったが、先輩のように儲けられることを考えれば必要経費だと思えた。

―数か月後―

ＵＳＢの指示通りに投資を行ったが赤字になる一方だった。
そこで先輩に相談しに行くと

「そうか。まぁ運がなかったのかな？でも、大丈夫な方法もまだあるよ。桜ちゃんの知り合いにこのＵＳＢを勧めて購入させれば、1人につき5万円キャッシュバックされるんだよ。桜ちゃん友達たくさんいるだろうから、その子たちに勧めてキャッシュバックしたら借金もなんとかなるんじゃない？」

と言われた。さすがに私は自分の友人に危ない橋を渡らせたくない思いがあり、乗り気になれなかった。友達を裏切りたくない上、これ以上粘っても儲けられる気がしなかった。
そこで先輩に解約の意志を伝えると

「解約？できないことはないけど、解約するなら違約金として10万円が課せられるよ？そんな余裕が今の桜ちゃんにはあるの？」

と言われた。すでに大量に借金をしている私にはもう10万円を払う余裕などなかった。私は成人して大人になるということがどういうことか理解できていなかった…。今までは親がどうにかしてくれていたが、大人になると責任は全部自分が背負うことになってしまうのだ…。親にこのことが知られたら、一人暮らしを止めさせられるだろう…。こんなこと最初からするべきではなかった…。親や友達とかに相談するべきだった…。

私は私を陥れた先輩に憤りを感じると同時にＵＳＢを購入した事に後悔した。

私は決して大人などではなかった…

私は大人になったと浮かれていた、ただの愚か者であった…

「あるゲーム好きの高校生のお話」

大島商船高等専門学校　沖　駿介

今はとても良い時代になった。皆が簡単に情報を手に入れられるし、いちいち外出しなくても買い物が出来るし、普通なら絶対に関わりを持てない人とも繋がれるようになった。

それはひとえにインターネットが広く一般的になったことによる効果だ。

一昔前はインターネットはパソコンやネットワークに詳しい一部の人のもので、普通に暮らす一般人にはなかなかハードルの高いものだった。

しかし今は皆がスマートフォンを持ち、SNS 等や掲示板なども簡単に利用できるようになり、自分を発信することが容易になった。

誰でも芸能人ばりに有名になれるチャンスがあるというのは、素晴らしいことだと思う。

……、もっとも、それは高校生である僕にとってあまり関係の無いことだ。

いや確かに、SNS のお陰で簡単に友人と遊ぶ予定を組めたり、会話したりすることが出来るようになったが、僕が本当に良いと思ったのはそこではなかった。

それはゲーム、そうスマホゲームだ。

小中学生の頃はゲームと言えばゲーム機を用いたものだった。

当然、ハードとソフトを揃えようと思えば、当時の小遣い事情ではとんでもないお金が必要となる。

月 1000 円の小遣いをもらえるとすれば、種類にもよるが、ゲーム機本体なら年単位、ソフトでも最低 3 ヵ月から半年ためる必要がある。

よって当時の僕にとっては、ゲームとは年１の誕生日やクリスマスプレゼントとしてもらうか、お金を貯めて年数回購入できるかという希少なもので、毎回買ってもらうときや自分で買うときは、それはそれは吟味に吟味を重ねて選んでいた。

そしていざ買ってみたら大して面白く無く、がっくりという経験も少なくなかった。

しかし今は違う。スマホゲームはほとんどが基本プレイ無料だ。試してみて、楽しくなければすぐアンインストールすれば良い。

そうやって色々やっているうちに、僕は素晴らしいゲームに巡り会うことが出来た。

そのゲームは日本では知らぬ人はいないとまで言われたゲームで、高校でもクラスメイトの殆どがプレイしていた。

基本的に流行に乗らない部類であった自分も、プレイしていく内にのめり込んでいった。

スマホを購入する際に家族と交わした、操作時間の制限等の約束も、半月もすれば簡単に破ってしまっていた。

プレイを始めて半年、ゲーム繋がりで友達も増え、家族との約束もすっかり忘れていた頃。

ゲームのあるステージで僕は、一週間近く躓いていた。

そこは今までとは違い、ボスはもちろん道中の敵もかなり強くなっており、今の自分のキャラやプレイヤースキルではどうしようもなくなっていた。

攻略サイトや、解説動画などをみて必死に勉強したが、何度挑戦しても、ほとんどボスにすらたどり着けない状況が続いていた。

そんなときだった。ある告知が運営から自分達にもたらされた。

それは、ある強力なスキルを持ったキャラのガチャ排出率を、期間限定で大幅に上げるというものだった。

僕は震えた。このキャラさえいれば、今の状況から脱出できる。そう思った僕は、必死にガチャを回すためのアイテムを集めた。時間は限られている。僕は勉強時間や寝る間を惜しんで、アイテム収集に勤しんだ。

そして、排出率アップ終了前日。ぼくはどうにか 30 回分回せるだけのアイテムを揃え、ガチャのページを開いていた。

神様、どうかお願いします。そう願いながら僕はガチャを回すボタンをゆっくりと押した。

ーー結果は無惨なものであった。狙いのキャラはおろか、大したことの無い雑魚キャラしか出てこなかった。

僕は絶望した。あと二日。どう頑張ったってもう一回回せるだけのアイテムを集められない。それに気力も体力も使い果たした。また明日からクリアしようの無いステージを延々回し続けなければならないのか……、そう思ったとき、ふとひとつの方法を思い付いた。

が、すぐに首を横にふる。無理だ。自分はバイトをしていない。月 2000 円のお小遣いだけだ。それも友達と遊びに行ったり、買い物をしたりするとすぐに無くなる。

お年玉も、あるゲームハードを買うのに使ってしまった。今はほとんど遊んでないのでなんで買ってしまったのかと後悔した。

お金はない。無理だ。諦めよう。しかし、頭でそう何度も自分に言い聞かせているのにどうしても諦められなかった。

そこに、甘い囁き、言うなれば悪魔の声が聞こえた。自分は一度は否定し拒絶した。そんなことをしてはいけない。そんなことは出来ない。

だが、悪魔は、僕のそんな心を嘲笑うかのように囁いた。

「そんなもの、ばれなければなんの問題もない。」

その後僕は、欲しかったキャラを手にいれ、その難関ステージを攻略した。

その後僕は、タガが外れてしまったのだと思う。ステージにつまる度に、「ちょっとだけ、ばれなければ問題ない、いや絶対ばれない。」と自分に言い訳をしてそれをやり続けた。

罪悪感は、数字をいれボタンを押す度に薄れていき、逆に表示される０の数は増え続けていった。

そんなことをし続けていたある日。普段通りに家に帰ると、普段は絶対にある親からのお帰りの声がなかった。

鍵は空いていたのでいる筈なのだが……、そう思いながらリビングに入ると、親は二人とも机のそばに立っていて、その上におかれている数枚の紙を神妙な面持ちでみていた。

と、こちらに気づいた母が、なにも言わずその紙を持って、音もなく近づき、紙を渡してきた。

僕は訳もわからずその紙を受けとる。ふと、父の方を見てみると、腕を組んで怖い顔でこちらを見ていた。

僕は恐る恐る紙を見る。クレジットカードの利用明細だった。そこには親がよく使うスーパーマーケットや、コンビニ、ガソリンスタンド等の名前が印刷されていた。

それは全く問題ない。問題は、その店の２、３倍の量書かれているゲームのタイトルだった。

僕は無心で、そこにある金額を数え足していってみた。

果たして、その額は一体お小遣い何ヵ月、いや何年分になるのだろうか。

「恋は盲目」

YCC 山口コアカレッジ　澄川　晋ノ介

「はぁ……恋がしたい」

　そう呟くのは一人の男子高校生だ。
　学力は普通で容姿の良し悪しも他人からは「普通」と称され、運動神経も平均並みであり、それこそ普通と呼ぶに相応しい。

「でも、彼女は皆と同じようにはいかない……辛い……泣きそう……」
「おいおい、司。彼女がいなくとも俺がいるだろっ？」
「馬鹿野郎。男よりも女だ」

　名前は神原　司。彼を慰める少年は原口　啓一。
　二人して入学当初から「一緒に彼女いない歴＝年齢を貫こうね」と誓い合った仲だが……周りの男子たちを見ているとどうも彼女の魅力なるものに憧れを抱いてしまう。

「勘弁してくれよ～……約束したじゃないか！　俺とお前で！」
「……お前、周りを見ても同じことが言えるか？　ほれ見ろよ」

　誓いを破ろうとしている友人のその裏切りに嘆く啓一だが、司は反論するようにして顎でクイッ、と周りを示した。
　司の言う通り、周りには一緒にお菓子を頬張る男女と周りの目があるのにも関わらずイチャイチャとしているカップルばかり……こちらとしてもそれが羨ましく思えてくるのだ。今、本心をそのまま言葉にしてしまうと

「俺も彼女が欲しい」
「……」

啓一は何も言い返さなかった。

「……ま、気をつけろよ司。経験豊富な奴からはよく聞くぜ？」
「何が？」
「女って奴は……よく騙してくる、ってよ！」

そんなことはないだろ。司はそう言って信じなかった。

学校も終わり、家の近くにあるパン屋での数時間のバイトが終わってから着替えていた時の事だった。
年齢は年上だが、このバイトでの労働期間では後輩にあたる川口　劉さん。彼の様子が
今日は特におかしかったので、彼に近づいて見てみるとどうやら携帯を見ながらニヤニヤしており、状況に耐え兼ね聞いてみる。

「どうしたんですか？　……あ！　川口さん、バイト先でそういうものを見るのは……」
「いや違うって！　これは LYNE でこのアカウントを友達登録するとすぐに相性のいい彼女ができてウハウハっていう奴で……」
「そうでしたか……それは失礼しまし……ってバイト先でしょうが！！」

川口さんにツッコんではいたものの、司の頭にはその内容がいやに残ってしまっていた。

帰宅したのち、LYNE を開いてそのアカウントの名前を検索してみると、確かにプロフィールの写真に「これだけカップルが成立しました」という文字と、数々のカップルの写真が表示されており、自分の心には魅力的に感じてしまう。
高校生がマッチングサイトやらを利用するのは良くないとは知っているが……まさに「背に腹は代えられない」という状態……そして、欲に負けて友達登録を押してしまった。

数週間が経過した。
例のアカウントを友達登録してから、喜ばしいことに彼女が出来た。
写真を見せてもらったが、自分好みの女性だった。電話も何度かしており、声も綺麗だったのを

よく覚えている。なんと気も合うという自分にぴったりの女性だったのだ。

　そして――今日はその彼女とデートをする予定。
　そういうこともあり、服装はおしゃれしており髪型もばっちり。鼻息を荒くしながらも映画館の近くで待ち合わせをしていれば、その彼女が向こう側にいてこちらに歩いてくるのが見えた。
　こちらに気づいてもらえるように大きく手を振って、こっちだと知らせればミディアムショートの彼女が走ってくる。

（嗚呼……健気だ……）

　走る姿でさえも美しい。
　恋は盲目だと言うが――――その盲目がトラブルを生むとは思いもよらなかった。

「遅れてごめんなさい。待ちました？」
「えっ……あ、いや！？　全然待ってないよ。今来たとこだし……」
「ふふっ……嘘が下手ですね。お詫びに奢ってあげます」
「いやいいよ。ここは格好付けさせてほしいな」
「そうですか？　じゃあお言葉に甘えて」

　その日のデートは最高だった。
　恋愛ドラマでの口付けのシーンでは気まずかったけれど……レストランでパフェを食べさせあったり、近くのタピオカミルクティーのお店をはしごしてみたりと、彼女が居ることの素晴らしさを目一杯に感じられた日だ。

　だけども、そんな日もこの日が最後だったなんて、思いもよらなかった。

　デートの日――――もうそろそろで日が落ちる時間帯。
　もう家から遠くまで来てしまったし帰るべきかなと思い、そう提案しようとした時だった。

「ねぇ？　私、実は欲しいものがあって」
「欲しいもの……？」

「そう。でもちょっと割高だから中々買えなくて……あそこのお店なんだけど」

　高級ジュエリーショップであろう看板のお店。
　お金は銀行の口座から下ろせばあるが、もう奢るのは勘弁……しかし、たまに彼女が見せる小悪魔のような笑みには勝てない。

「見ていくだけでも……いいかな？」
「うん。いいよ」

　欲に負けて、手を引かれるままにそのお店に入った。
　いらっしゃいませ、という店員の声にどうも、と返し、置いてあるショーケースには数十万もの値段が書かれた値札。こんなちっぽけな石ころが六十五万！？　という疑問が顔にでも書いてあったのか彼女はクスクスと笑ってくる。

「それで……君が欲しいのはどれなの？」
「そこの、エメラルド」
「緑好きだもんね」

　うん！　と元気良く頷く彼女の笑顔はとても素敵だった。
　そして彼女が指し示したエメラルドのネックレスのお値段は何と三十万。

「たっかいなぁ……二十万だったらワンチャンあるけど……」

　その発言が仇となった。

「お困りですか？　もしくは手が届かなくて悩んでおられるとか……」
「うわっ！？」
「おっと、いきなりすみません。私この店の店長をやっております」
「あぁ……そうでしたか」
「それで、彼女さんですかな？」
「――！　そうですそうです」
「そうでしたか……どうです？　彼女さんにプレゼントとか」

店長の提案。
その意見には大いに賛成といったところだが、将来の為にと貯金は残しておきたいし二十万以上は使えない。うんうんと悩んでいれば畳みかけるようにして店長が甘い言葉を掛けてきた。

「じゃあそうですねぇ……カップルという事で、二つ買えば合計で二十万という条件でもよろしいですよ？」
「えぇっ！？　本当ですか！？　買いましょう？　お願い、お金なら後々返すからっ」

どうも――話が良すぎる。
こういう場合は疑うべきだと理解はしているものの、ちゃんとしたお店みたいだしお客を騙すなんてことはしないだろう。と司は疑わなかった。
それに……もう帰らなければ、とも思っていたから。

「わかりました。買います」

この時、司は後ろでニヤリと嗤う彼女と店長の表情に気が付かなかった。

契約なんてするんじゃなかった。と数年前の「その頃」を思い出す。
あの後、包装して自宅に送ると言われたのに、自宅に届くことはなかったし、オマケに彼女とは連絡も取れなくなっており騙されたと気付いてからは自分自身が情けなくてどうしようもなかった。
バイト先の川口さんも被害に遭ったみたいで今となっては長い付き合いだ。
親友である啓一と同じく、今は運命の人といっても過言ではない素敵な女性とも巡り合えている。

「あ……」

見覚えのある女性が目の前にいた。
相変わらずの美人。また人を騙しているのだろうか？　更生しているとすれば嬉しいが今となっては彼女に対して恋情は抱いていない。

「どうしたの？　パパ」

「おう、あかり。学校は終わったのか？」

「うん。それで……あの女の人がどうかしたの？　うわき？」

「違うぞっ？！　パパはママ一筋だ！　ただ……昔の嫌なことを思い出しただけさ」

「？」

「恋は盲目……ってね。あかりは経験の少ないうちは好きな人でも簡単に信じちゃいけないぞ」

そう言った帰り道。地平線に沈む夕日は今日も紅く綺麗に輝いていた。

「心高鳴る 20 の夏」

山口大学　熊田　悠哉

夏の日差しもきつい 8 月の頭。僕はようやく誕生日を迎えて、晴れて 20 歳となった。だからお酒やたばこなどが合法的に飲んだり吸ったりできるようになった。そこで僕は初めて友達と居酒屋に行ってお酒を飲むのだ。少し興奮しているのかな？待ち合わせに間に合うよう出発しようとする僕はどこか高揚していて、冷静じゃなかった。

待ち合わせには大分早すぎるが、楽しみでしょうがない。靴を履いてドアを開けようとしたその時。ピンポーン。と耳慣れた音が響いた。タイミングが悪いな、と僕は思うが、僕が今いるのは玄関だ。さっさと対応して出発しよう。そう思いドアを開けた。

「こんにちは。私はＨＤ電気の山下という者です。この度は電力自由化に伴い、スマートメーターへの変更をご案内しに参りました。」

そこにいたのは汗をかいたおじさんだった。スマートメーターが何かはわからないが、電力自由化は知ってる。好きな電力会社と契約していい、みたいなやつだ。最近はそのせいか CM もよく見かける。

おじさんは何かたくさんしゃべっていたが、山下さんの話をざっくり整理するとこうだった。今のメーターから新しいメーターに取り替えますよ。だから HD 電気に乗り換える必要があるんですよ。今よりもお得になりますし、特典もたくさん。更には最初の月は電気代無料なので、チャンスですよー。ということだった。

なるほど。すごいお得だし、スマートメーターに変更するのに電力会社を変える必要があるのならば是非もない。そう思って僕は HD 電気に変更することを決意した。その後は色々書類を書いて、支払いはクレジットカードにした。ついこの前作ったばかりだが、さっそく役に立つとは。

（まあ、さっさと契約終わらして出かけよ）

この時僕は脳天気に構えすぎており、頭の中は友達と飲みに行くことでいっぱいで、考えることをおろそかにしていた。

問題が起きたのは 9 月の下旬だった。通帳記入の時僕は目を疑った。クレジットカードの支払いが 10 万円を超えていたのだ。先月は 1 万円すら使ってないのに何故だ。僕はすぐさまカードの利用履

歴を調べた。すると知らない買い物がたくさんあった。すぐさまカード
会社に連絡をして、カードを停止してもらった。
一体何故こんなことになったのか。カードは手元にあるし、直近 1 ヶ月は誰も家に上げていない。人前で使ったのは買い物の時と……あ。電気の契約の時おじさんの目の前でカードを見ながら契約書に記入したのだった。もしかしてあれなのか。そういえば、裏側も見せたかもしれない。
気になった僕は HD 電気をネットで検索してみた。すごい簡素だが HP はあった。しかし驚いたのは検索ワードの候補に「HD 電気詐欺」と出てきたり、詐欺被害が報告されているサイトがいくつもあった。その中身はもとの電力会社と二重に支払いがある、覚えのない引き落としや、クレジットカードの支払いがあった等のことだった。
ここで僕はわかってしまった。ああ騙されたのだと。確かに契約する際は短慮だったかもしれない。適当に済ませたかもしれない。でもまさか、自分が被害に遭うなんて夢にも思わなかったんだ。本当にどうしてこうなってしまったのだろう。

「非日常ではないトラブル」

山口県立大学　堀尾　寧々

『消コンっていうコンテストがありまして･･･』

パソコンの画面に出されたのはコンテストのチラシだった。
大学の講義がオンラインになってしばらくたった頃。多くの先生は画面越しだと疲れるからと、途中に休憩や雑談を混じえて授業を行っていく。
この教授は早めに講義を終わって雑談をしてくれるタイプのようだ。

教授が告知したコンテストがふと気になり手元のスマホで調べてみた。

「なんだ･･･消費者トラブルのやつか･･･」

中学や高校で行われた講演会で耳にタコができるほど聞いた話だ。中身はあまり覚えてないけど。
色んなトラブルに巻き込まれるビデオを何回も見た。あんなわかりやすい罠にかかるはずがない。
そもそもそんなトラブルに巻き込まれるなんて非日常的なこと、そうそう起らない。
全く関係ないとはいわないが、そんな気にするほどのものでもないと思っていた。

そのままその日の講義は終わり、出された課題に取り組みながら友達と電話していた。

『ここの服すごい可愛くてさー』

友達が言ったのは私もずっと気になっていたブランドの服。

「分かる！でもやっぱ、高いよね･･･やっぱ可愛いものは高いのよ」
『でもこれ他のとこだとやばいくらい値下げしてるよ』
「他？」

問題を解いていた手を止め、友達が送ってくれたURLでサイトを開く。

「え！めっちゃ安い！80%オフ！？」
『そー！でもやっぱこういうの怖いんだよね･･･』

ずっと欲しくて、でも高くて手が出なかった洋服。友達も欲しがっている洋服。
ここで買ったらすごいお得に手に入るし、自慢もできる･･･。

そのサイトに釘付けになった私はもう友達の言葉が耳に入ってなかった。

(買っちゃおう･･･かな。銀行振込だから自分名義の銀行で払えば親にもバレないし。買ったらこっちのもんだよね。)

サイトの細部なんかよく読まず、かわいい服が安く手に入ることしか、もう私の頭の中にはなかった。

数週間後･･･

(そういえば、あの服まだ届かないな･･･)

ふとそう思ったあと、ヒヤリと嫌な汗が背中を伝う。
もう既に銀行への振込も済ませていた。

急いでスマホで例のサイトを検索してみる。

「えっ、サイトがない！？嘘でしょ？」

手元に映し出されたのはエラー表示。

頭が真っ白になっていく。これって消費者トラブルってやつ？嘘でしょ、え、これってどうすればいいんだっけ･･･まず･･･まずは･･･

嫌という程流されたビデオも真剣に見てなくてあまり覚えてない。こういう時に誰が味方になってくれるのかも分からない。

考えがぐるぐる回る。存在しないサイトに対し、エラーを映したスマホをもって立ち尽くしたまま、後悔だけが身体の中に溜まっていった。

・・・・・漫画部門・・・・・

最優秀賞

「お試しのつもりが・・・」	防府商工高等学校	冨永　小琳	……26

優 秀 賞

「ＳＮＳ消費者トラブル①～③」	山口大学	田中　陽菜	……27
「買わないで!」	防府商工高等学校	藤田　桃子	……28
「困ったときは・・・」	防府商工高等学校	小阪　志寿玖	……29
「転売トラブル①～②」	山口芸術短期大学	吉野　鈴奈	……29
「ワンクリック詐欺」	YIC キャリアデザイン専門学校	岡田　響	……30

入　　選

「あきらめないで！」	山口大学	米山　咲輝	……31
「思ってたんとちがう。」	宇部中央高等学校	朝尾　華音	……31
「こんな時どうする？」	防府商工高等学校	片山　由梨	……32
「それワンクリック詐欺！？」	宇部中央高等学校	岡村　咲希	……32
「ちゃんとわかってる？」	山口県立大学	Ｌｕｕ	……33
「注文する前によく確認！！」	宇部中央高等学校	河村　朱音	……33
「デート商法にご注意を！」	防府商工高等学校	寺井　月妃	……34
「偽物注意！！」	宇部中央高等学校	榮福　優希	……34
「町で声をかけられて…」	宇部中央高等学校	植原　小由希	……35
「もうダマされない！！」	宇部中央高等学校	浅野　祐菜	……35

※賞別に作品名 50 音順に掲載しています。

「お試しのつもりが・・・」

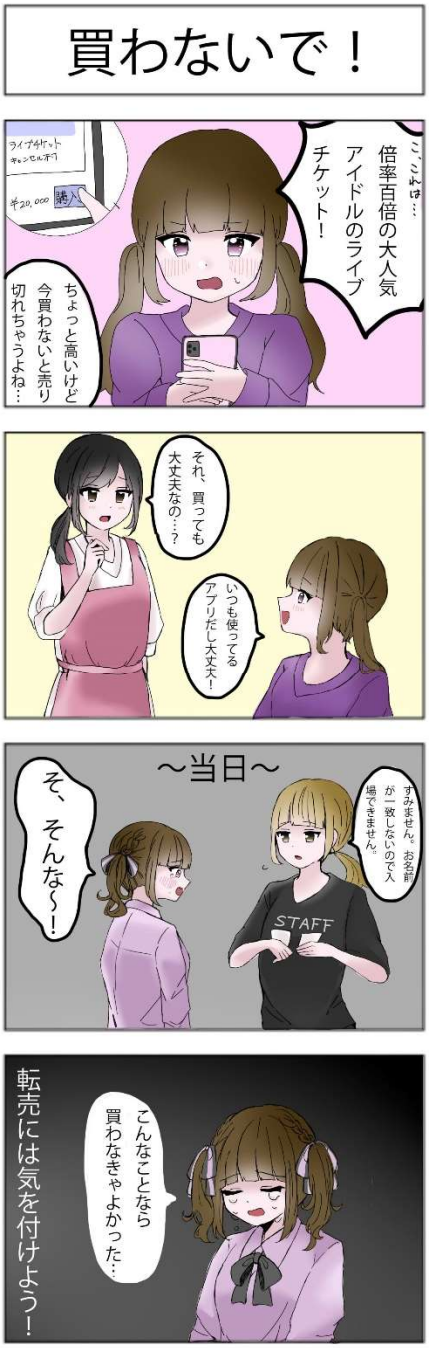
防府商工高等学校　冨永　小琳

「ＳＮＳ消費者トラブル①～③」

山口大学　田中　陽菜

「買わないで！」

防府商工高等学校　藤田　桃子



「困ったときは…」

防府商工高等学校　小阪　志寿玖

「転売トラブル①～②」

山口芸術短期大学　吉野　鈴奈

「ワンクリック詐欺」

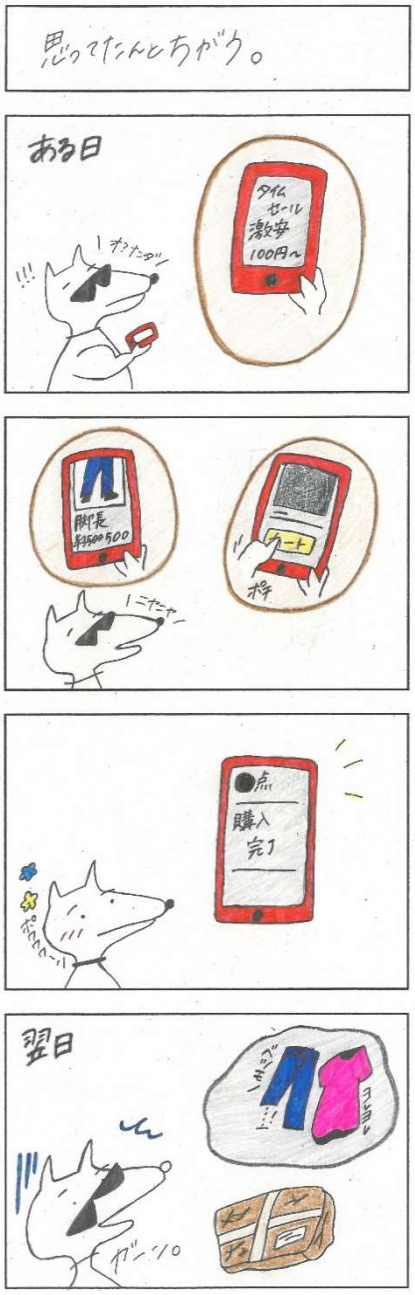
YIC キャリアデザイン専門学校　岡田　響

「あきらめないで！」

山口大学　米山　咲輝

「思ってたんとちがう。」

宇部中央高等学校　朝尾　華音

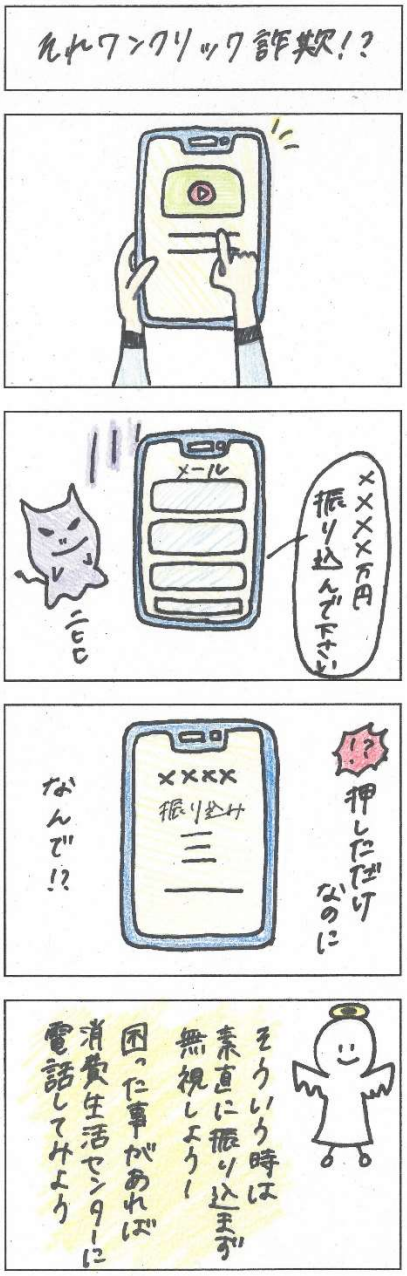


「こんな時どうする？」

防府商工高等学校　片山　由梨

「それワンクリック詐欺！？」

宇部中央高等学校　岡村　咲希



「ちゃんとわかってる？」

山口県立大学　Ｌｕｕ

「注文する前によく確認！！」

宇部中央高等学校　河村　朱音

入選

漫画部門

「デート商法にご注意を！」

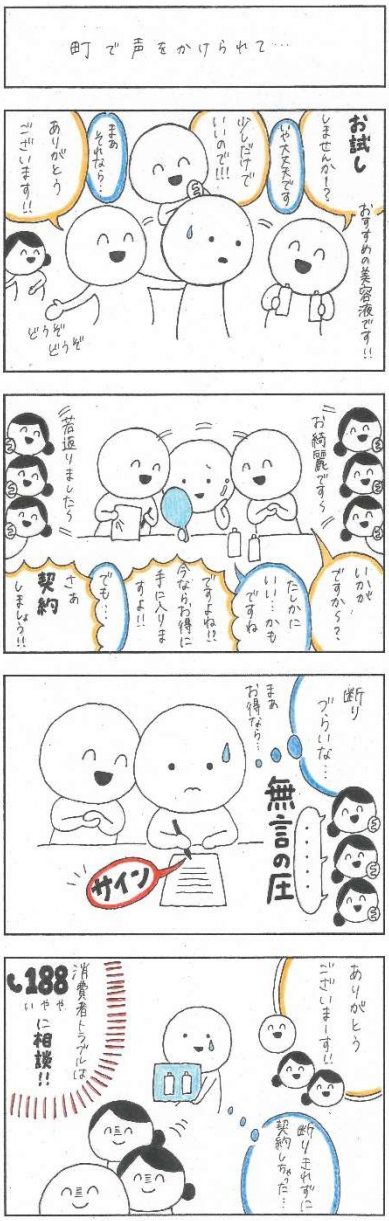
防府商工高等学校　寺井　月妃

「偽物注意！！」

宇部中央高等学校　榮福　優希

「町で声をかけられて…」

宇部中央高等学校　植原　小由希



「もうダマされない！！」

宇部中央高等学校　浅野　祐菜

・・・・・動画部門・・・・・

最優秀賞

「ネットショッピングの注意点　知っちょる？」
防府高等学校　防府高校　家庭クラブ　……36

優 秀 賞

「あなたも被害者かもしれない」
防府商工高等学校　にっつにっつ　……37

入　　選

「気を付けよう！ネット広告！！」
柳井学園高等学校　柳井学園高等学校生徒会　……38

「もしもスカウトされたら」　野田学園高等学校　吉田　亜結　……39

「ワンクリック詐欺防止動画」　大島商船高等専門学校　松村　浩志　……40

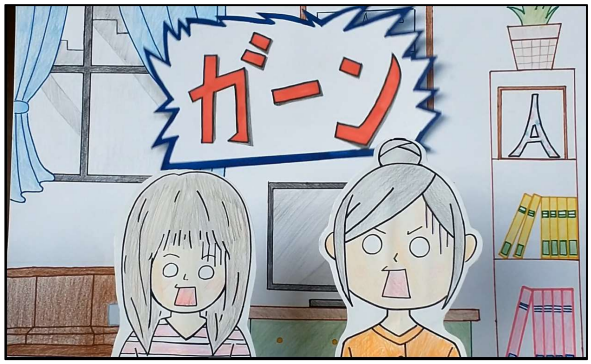
※作品概要を掲載しています。

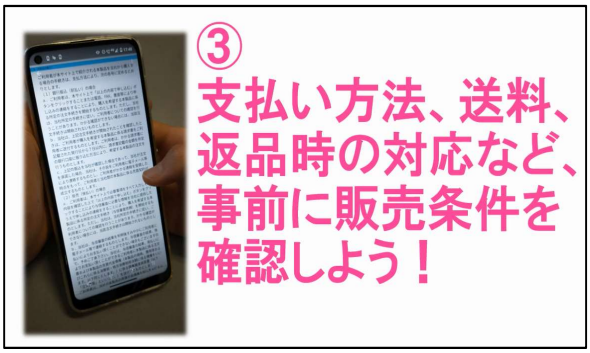
※作品名 50 音順に掲載しています。

最優秀賞
動画部門

「ネットショッピングの注意点　知っちょる？」

防府高等学校　防府高校家庭クラブ





（あらすじ）
ある日、ネットでかわいい洋服を見つけ、すぐに購入することにしました・・・

しかし、なかなか商品が届かないため、販売元に確認しようと電話をかけたところ、
「おかけになった電話番号は現在使われておりません」とのアナウンスが・・・「ガーン」

もしかして、「これって詐欺！？」

このようなトラブルに巻き込まれないために、ネットショッピングを利用する際に注意する６つのポイントを紹介！

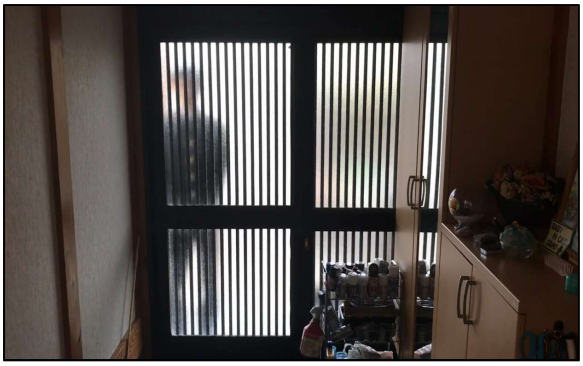
困ったときは、１８８に相談。消費者トラブルに気を付けよう！

＜動画を見る＞　５９秒

YouTube のページに移動します

「あなたも被害者かもしれない」

防府商工高等学校　にっつにっつ



（あらすじ）
突然家にやってきた謎のセールスマンから、「幸運の壺」が今だけ特別サービス、９０％オフで購入できると勧誘されます。

特別セールは本日限り、とのことで「買うなら今しかない」と思い、すぐに購入を決めました。
しかし、代金を振り込んでも商品は届かず、電話もつながりません。

どうやら悪徳セールスマンにだまされたようです。

訪問販売で商品を購入する際に注意するポイントをアドバイス！

次の被害者はあなたかもしれません・・・
困ったら１８８にすぐ相談

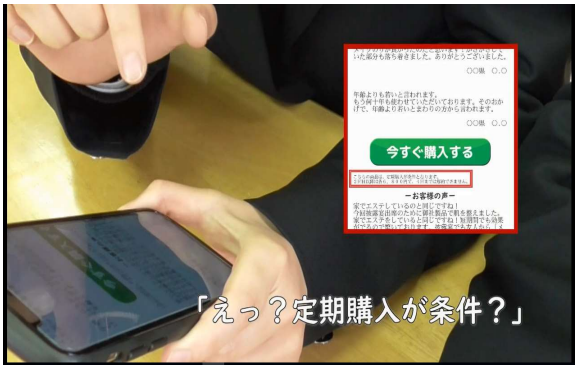
＜動画を見る＞　５９秒

YouTube のページに移動します

入 選
動画部門

「気を付けよう！ネット広告！！」

柳井学園高等学校　柳井学園高等学校生徒会



（あらすじ）
ある日、スマホで気になるネット広告を見つけました。

紹介されている商品も５００円と安くなんだかよさそうです。

ちょっと待って・・・

画面を下にスクロールしていくと、「４回の定期購入」が条件で、２回目以降は各 6,800 円、途中解約はできない、と小さな字で書いてあります。

ネット通販で多い「定期購入」トラブルについて、注意点を紹介！

気を付けよう！ネット広告！

＜動画を見る＞　２８秒

YouTube のページに移動します

入 選
動画部門

「もしもスカウトされたら」

野田学園高等学校　吉田　亜結

（あらすじ）
ある日、街で友達と写真を撮っていると・・・

金髪グラサンの男が「君たちかっこいいね♪俳優にならない？」と声を掛けてきました。

突然の勧誘に、２人は大喜びです。
契約書にサインを求められていますが、果たしてそのスカウトは本物なのでしょうか・・・

「スカウト商法」に騙されないために注意するポイントを紹介！

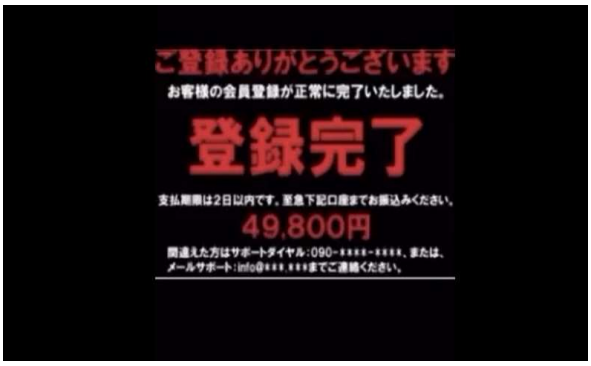
あやしいと思ったら１８８（いやや）へ相談！
お近くの消費生活センターへつながります。

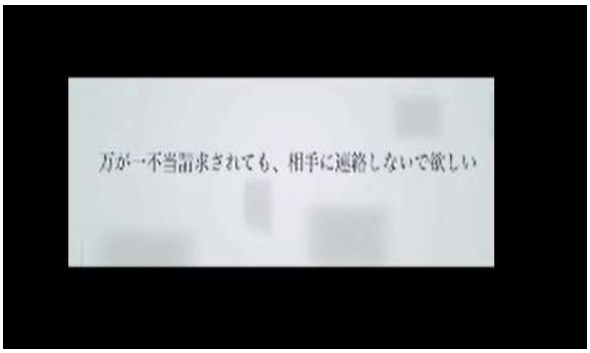
＜動画を見る＞　４８秒

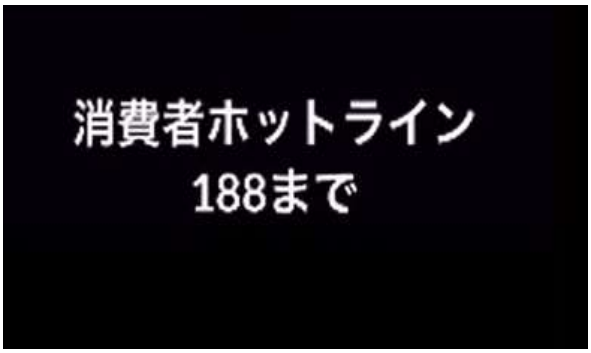
YouTube のページに移動します

「ワンクリック詐欺防止動画」

大島商船高等専門学校　松村　浩志







（あらすじ）
サイト上に、「この動画を再生しますか？」と書かれています。

「Ｙｅｓ」をクリックしても動画は再生されません。

それでも何度もクリックしていくと・・・

突然「登録完了」「４９，８００円」の文字が・・・

ワンクリック詐欺の対処法について紹介！

万が一不当請求されても相手に連絡しないでほしい

消費者ホットライン１８８まで

＜動画を見る＞　３７秒

YouTube のページに移動します

消費者トラブル防止コンテンツ製作コンテスト２０２０概要

〇目的

若者の消費者被害防止のため消費者トラブルについて学ぶきっかけとなる作品を募集

〇募集する作品のテーマ

「防ごう！消費者トラブル」

〇応募資格

応募時に県内に居住または県内の高等学校等※、高等専門学校、専門学校、短期大学、大学に在籍している生徒及び学生（グループでの応募も可）

※高等学校、中等教育学校（後期課程）、特別支援学校高等部

〇募集内容

小説部門：４，０００字以内の短編小説
漫画部門：４コマ漫画
動画部門：１５秒～１分のショートムービー

〇募集期間

令和２年７月１日 ～ 令和２年 10 月 30 日

〇応募方法

コンテスト専用サイトからのＷｅｂ応募または郵送
※動画作品は、Ｗｅｂでの応募のみ

〇応募作品数

合計１１７作品
小説部門：１８作品、漫画部門６４作品、動画部門３５作品

〇一次審査（入賞作品決定）

消費者教育の専門機関が１次審査を行い、審査委員会で入賞作品を選定
計３０作品（小説部門９作品、漫画部門１６作品、動画部門５作品）

〇二次審査（受賞作品決定）

入賞作品についてコンテスト専用サイトで部門ごとに一般投票を行い、受賞作品を決定

投票期間：令和２年12月15日10時 ～ 令和３年１月18日10時
総投票数：７５９票、投票者数：延べ４０５名（※複数作品への投票可）

〇受賞作品

募集部門	最優秀賞	優 秀 賞	入　選	合計
小説部門	１作品	３作品	５作品	９作品
漫画部門	１作品	５作品	１０作品	１６作品
動画部門	１作品	１作品	３作品	５作品
合　計	３作品	９作品	１８作品	３０作品

（令和３年２月 10 日 県庁において表彰式を実施）

〇学生消費者リーダーの認定

コンテスト受賞者及び応募者のうち希望者を認定
（令和３年２月 10 日 県庁において認定証交付式を実施）

≪参考≫　　県ＨＰの掲載情報の紹介

「知っちょる！？消費者トラブルまなべるサイト」

若者が遭いやすい消費者トラブルを動画や体験型コンテンツなどを通して詳しく知り、トラブル回避の方法を学べるサイトです。

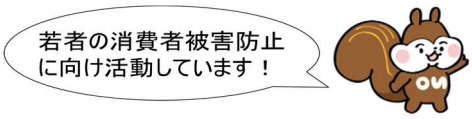
「やまぐち・くらしの安心ネット通信（若者版）」

※バックナンバーを県HPに掲載しています

山口県消費生活センターから、県内すべての大学、高等学校等に毎月１回メールで配信しています。学生や生徒、保護者に注意していただきたい消費生活情報を掲載しています。

「学生消費者リーダーの活動」

学生消費者リーダーは、若者と県との懸け橋となる存在として県が認定しています。県が行う出前講座の講師や啓発ラジオ番組の出演者として参加し、また、若者に向けた効果的な啓発を企画・実践するなど、若者目線に立った啓発活動を行っています。



山口県消費生活センター　TEL:083-924-0999（相談）／083-924-2421（消費者教育）
〒753-8501 山口県山口市滝町１番１号　FAX:083-923-3407　山口県消費生活センター　検索

相談受付時間　[月～金] 8:30～17:00　※土曜・日曜・祝日・年末年始はお休みです。